

Ⅲ 調査結果

1. 地域活動について

問1 ここ1年ほどの間で参加した地域活動にはどのようなものがありますか。(3つまで)

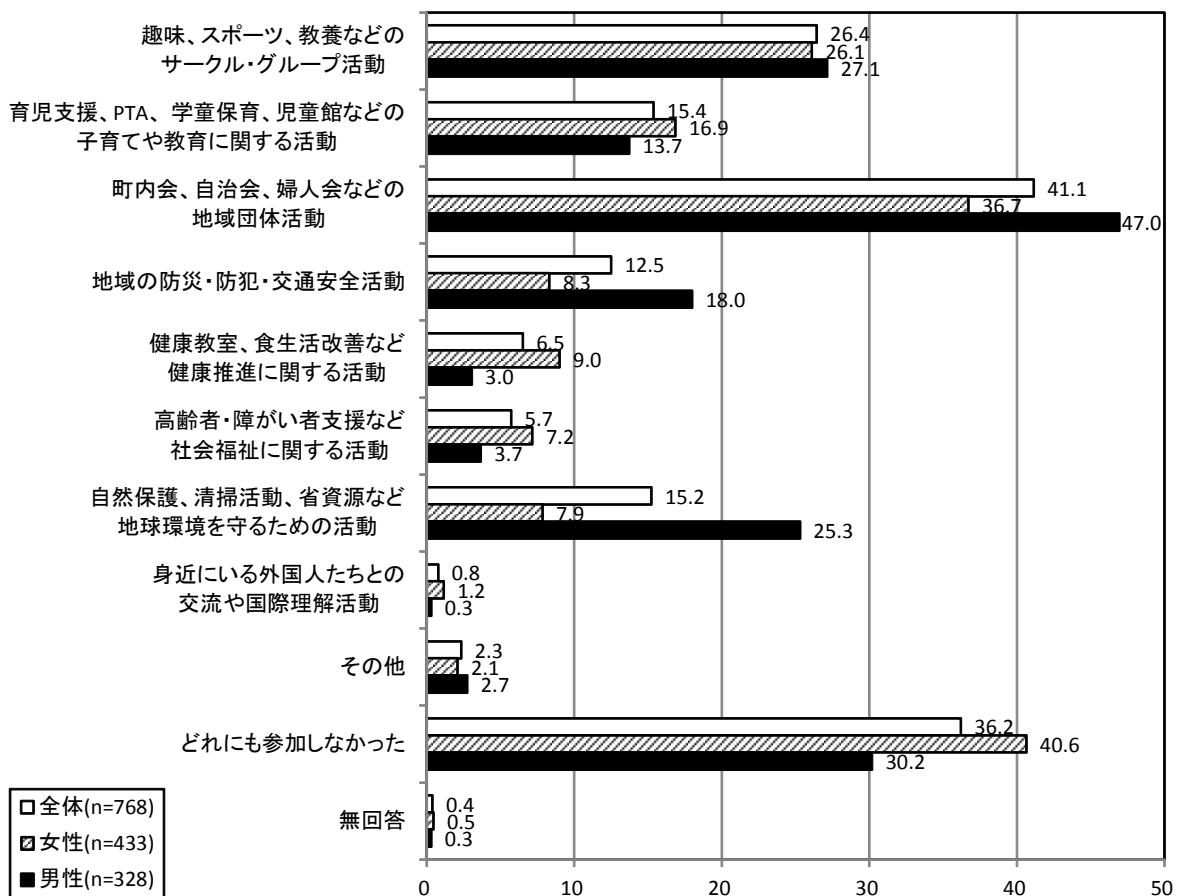
- 最も参加の多い活動は、約4割の人が参加している「町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動」。
- 「どれにも参加しなかった」と答えた人の割合は、女性で約4割、男性で約3割、20歳代では過半数となっている。

ここ1年ほどの間で参加した地域活動は、「町内会、自治会、婦人会」が最も多く、全体41.1%、女性36.7%、男性47.0%となっている。

次に多いのが、「どれにも参加しなかった」であり、全体36.2%、女性40.6%、男性30.2%、「趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動」全体26.4%、女性26.1%、男性27.1%となっている。

男女別にみると、「町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動」は女性36.7%、男性47.0%で10.3ポイント差、「どれにも参加しなかった」では女性40.6%、男性30.2%と10.4ポイント差となっており、男女で隔たりがみられる。

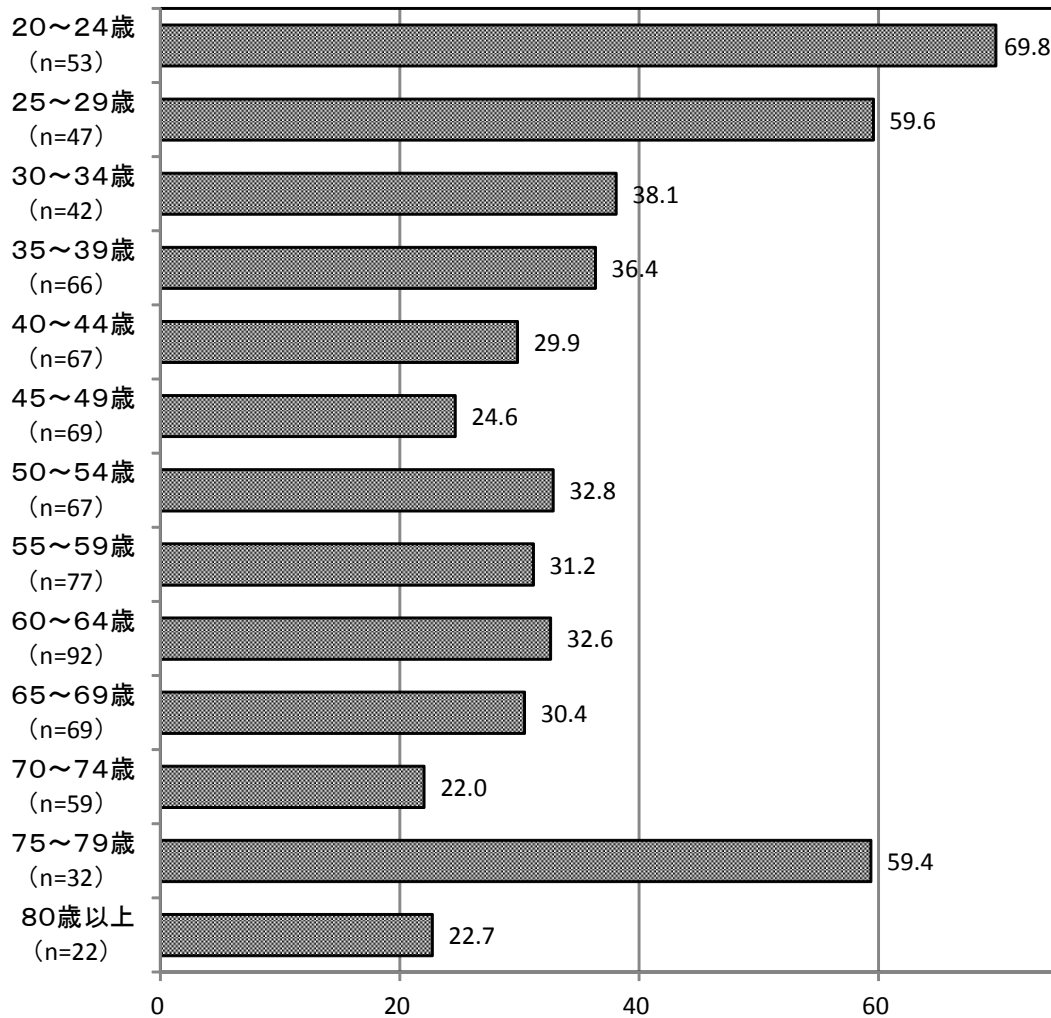
■ 図1 ここ1年ほどの間で参加した地域活動



単位：(%)

地域活動の「どれにも参加しなかった」と回答した人を年代別の割合で見ると、75～79歳を除いて、20～24歳で69.8%と最も高くなっており、ほぼ年齢が高くなるに従って減少する傾向にある。70～74歳では22.0%と参加しなかった人の割合は全年代中で最低となり、多くの人々が地域活動に参加していることがわかる。

■ 図2 「どれにも参加しなかった」と回答した人の割合



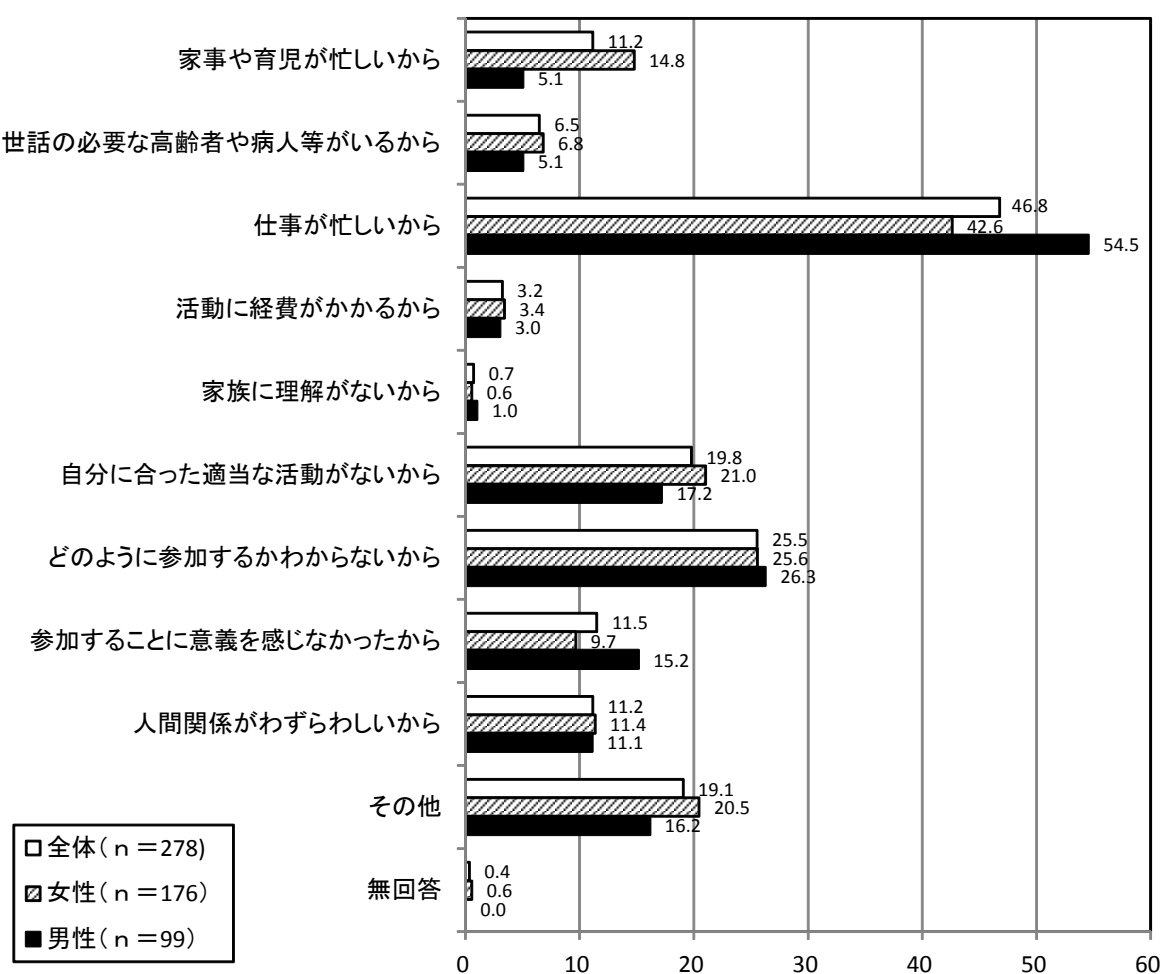
注：年代無回答n=6を除く
単位：(%)

問2 (地域活動に) 参加しなかったのはなぜですか。(問1で「どれにも参加しなかった」と答えた人のみ、2つまで)

○「仕事が忙しい」ことや「どのように参加するかわからない」ことを理由として地域活動に参加しなかった人が多い。

男女いずれも「仕事が忙しいから」という理由が最も多く、全体46.8%、女性42.6%、男性54.5%となっている。次いで「どのように参加するかわからないから」全体25.5%、女性25.6%、男性26.3%、「自分に合った適当な活動がないから」全体19.8%、女性21.0%、男性17.2%となっている。

■ 図3 地域活動に参加しない理由



単位：(%)

2. 家庭生活について

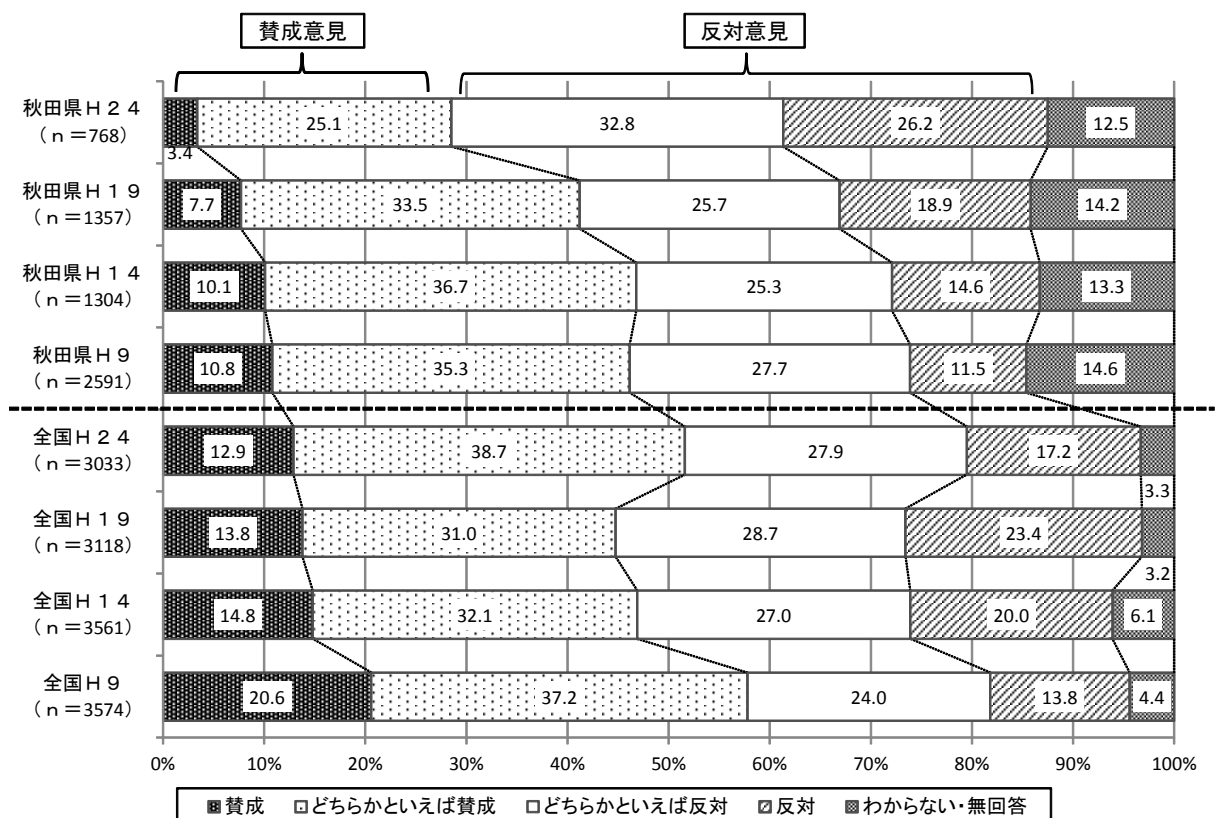
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか。(1つだけ)

- 全体で見ると、「反対」・「どちらかといえば反対」を合わせた反対意見が59.0%と、今回の調査で初めて過半数となった。
- 女性は、前回調査同様反対意見が過半数であるが、より反対意見と賛成意見の差が拡大した。また男性は、今回の調査で初めて反対意見が賛成意見を上回った。
- 年代別にみると、75歳以上では賛成意見が反対意見を、それ以外の年代では反対意見が賛成意見を、それぞれ上回っている。

男女合わせた全体で見ると、「反対」・「どちらかといえば反対」と回答した人（反対意見）の割合が59.0%と、「賛成」・「どちらかといえば賛成」と回答した人（賛成意見）の割合28.5%を大きく上回り、2倍以上となった。

全国調査の結果では賛成意見（51.6%）が反対意見（45.1%）を上回っており、秋田県では全国の結果とは異なる結果となった。

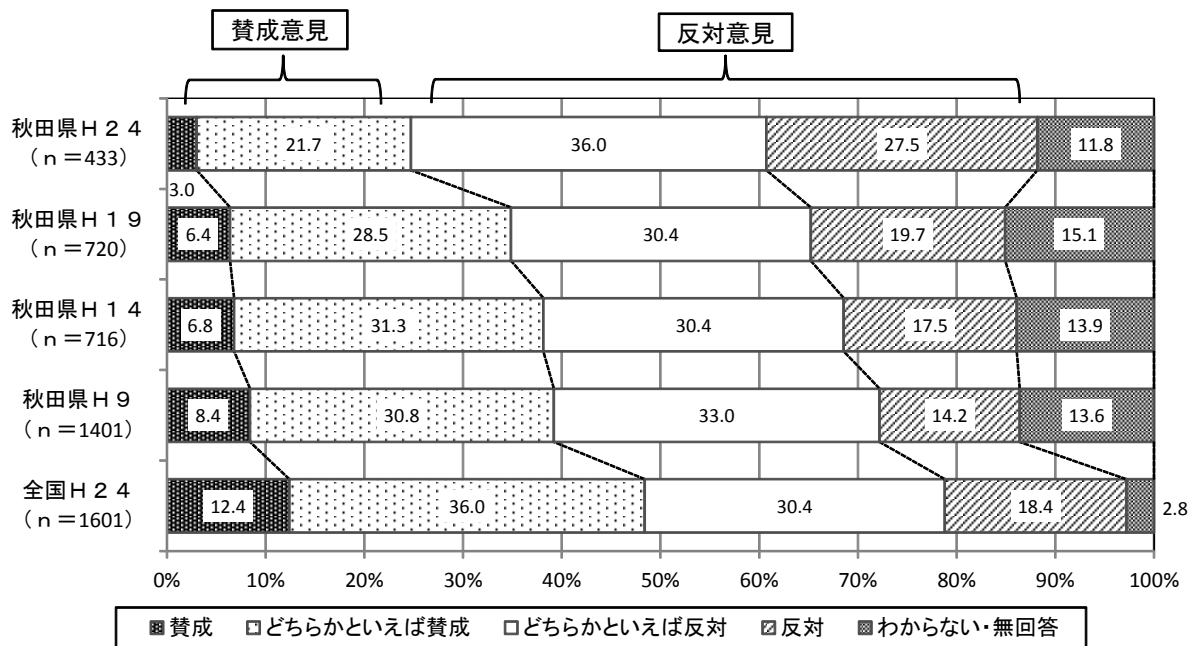
■ 図4 性別役割分担意識について（全体）



※全国データ：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（H24、以下同じ）

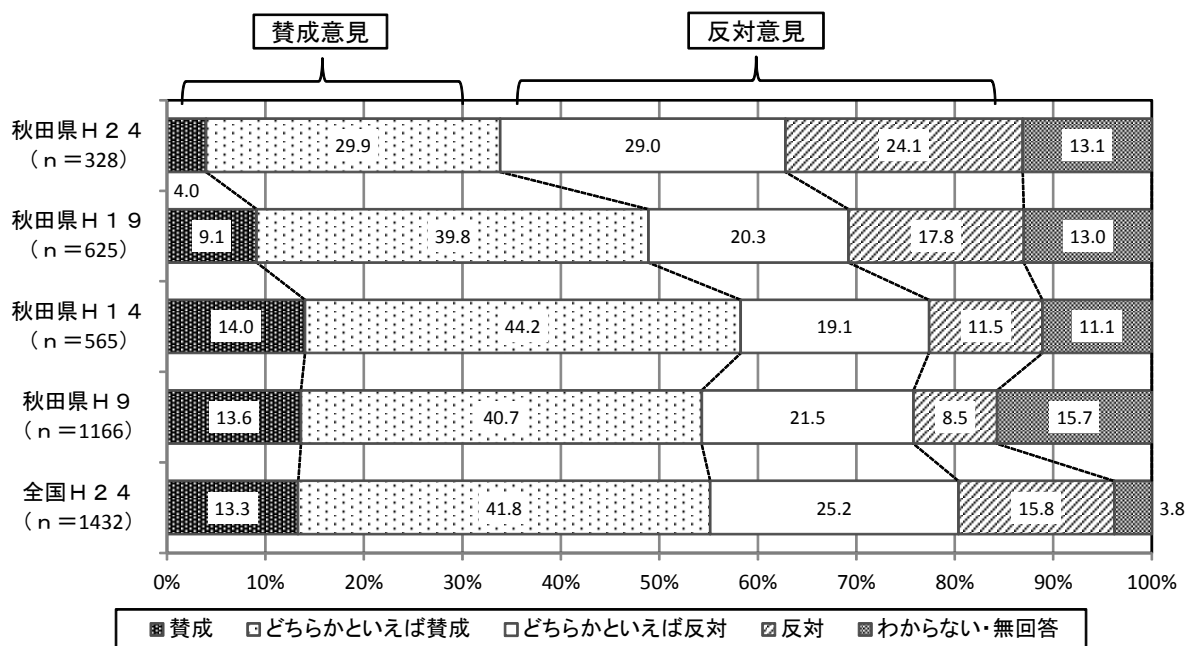
女性は、平成9年調査から反対意見が賛成意見を上回っていたが、今回は反対意見63.5%、賛成意見24.7%と、反対意見が賛成意見の2.5倍となった。

■ 図5 性別役割分担意識について（女性）



男性は、今回調査で初めて反対意見（53.1%）が賛成意見（33.9%）を上回り、過半数となった。

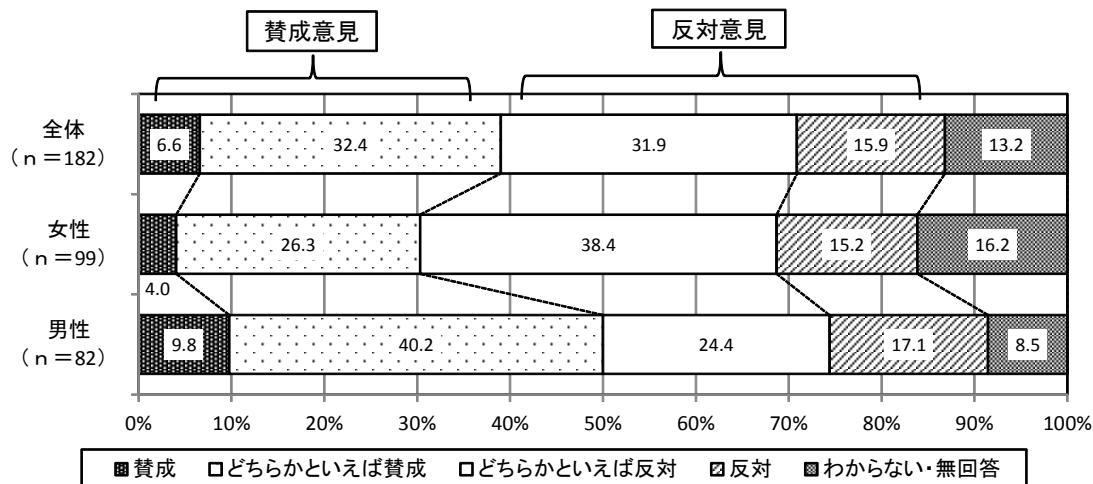
■ 図6 性別役割分担意識について（男性）



65歳以上の状況をみると、全体では賛成意見39.0%、反対意見48.4%で反対意見が賛成意見を上回った。

65歳以上の人を男女別でみると、女性は賛成意見30.3%、反対意見53.6%で反対意見が過半数となっているものの、男性は賛成意見50.0%、反対意見41.5%で賛成意見が多数を占めている。

■ 図7 性別役割分担意識について（65歳以上）

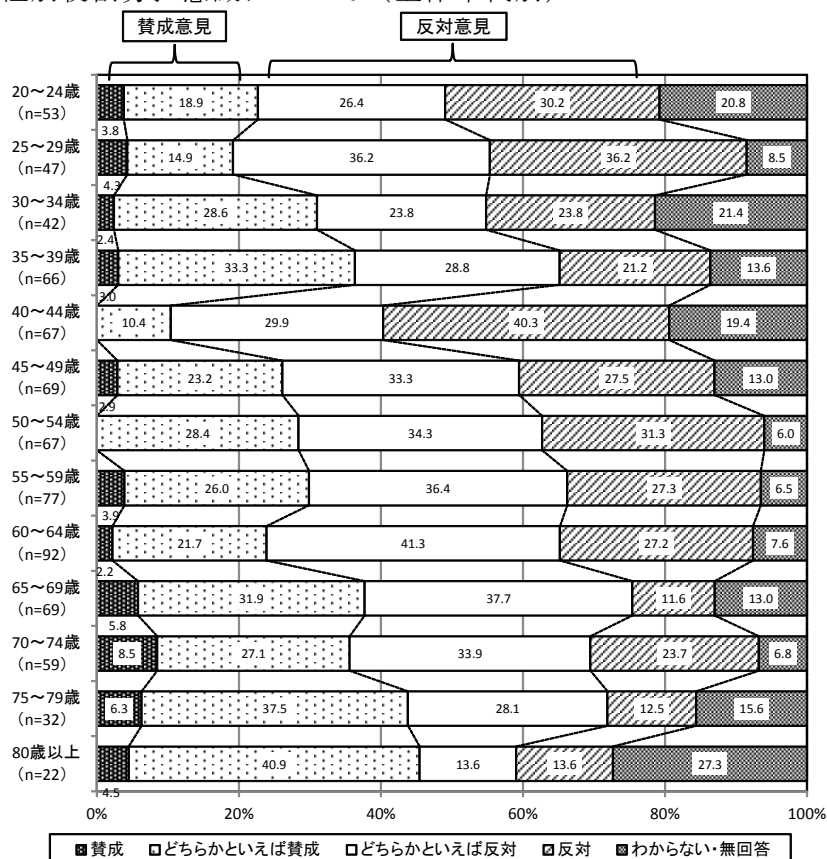


注：全体には性別無回答n=1を含む

年代別にみると、75歳以上を除くすべての年代で反対意見が賛成意見を上回っている。25～29歳では賛成意見が19.2%、反対意見が72.4%で反対意見が最大となっているほか、40～44歳では賛成意見10.4%、反対意見70.2%で賛成意見が最少となった。

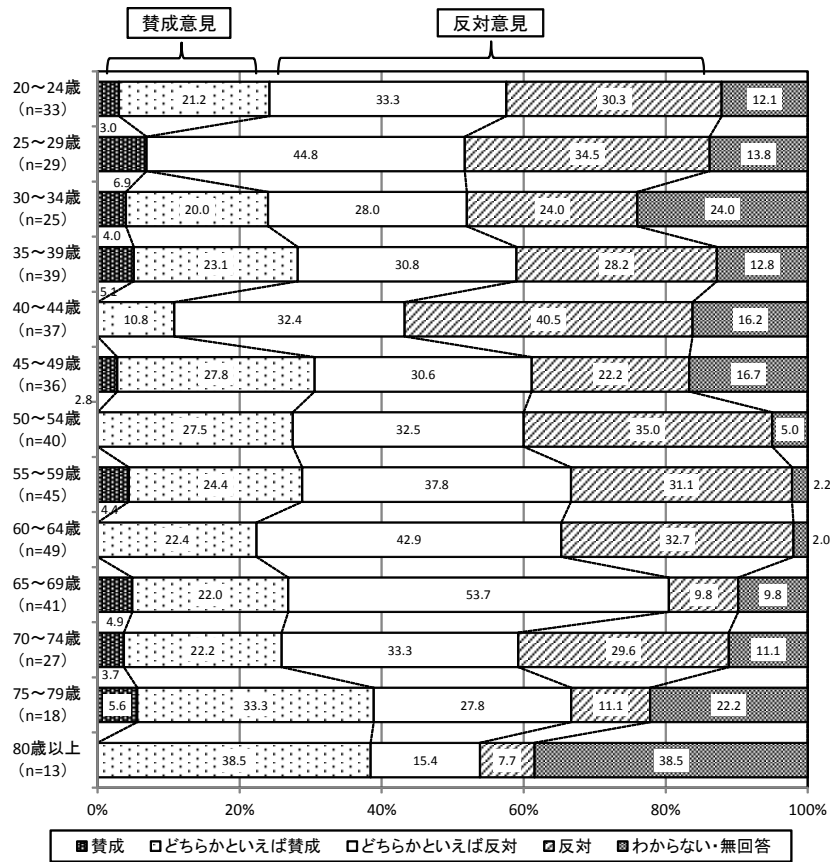
30歳代は若年層の中では賛成意見の割合が高く、3割を超えている。

■ 図8-1 性別役割分担意識について（全体年代別）

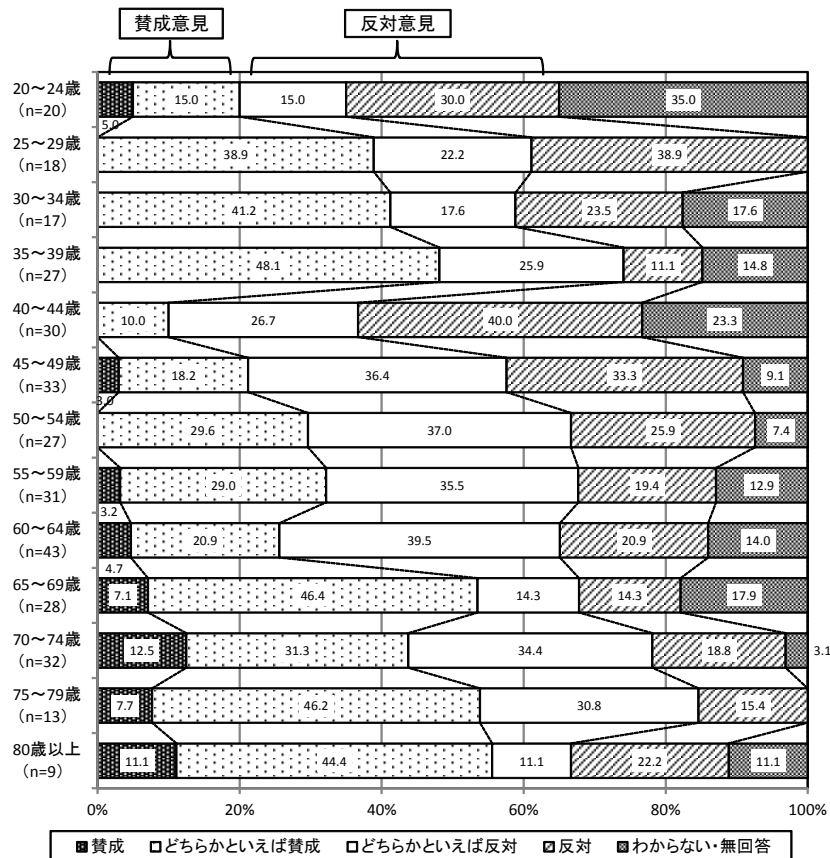


男女を年代別にみると、女性は75歳以上を除くすべての年代で反対意見が賛成意見を上回っている。一方で、男性は25歳から39歳までで賛成意見が多いのが特徴的であり、4割から5割程度を占めている。また男性は、65歳以上で賛成意見が4割程度から過半数を占める。

■ 図8-2 性別役割分担意識について（女性年代別）



■ 図8-3 性別役割分担意識について（男性年代別）

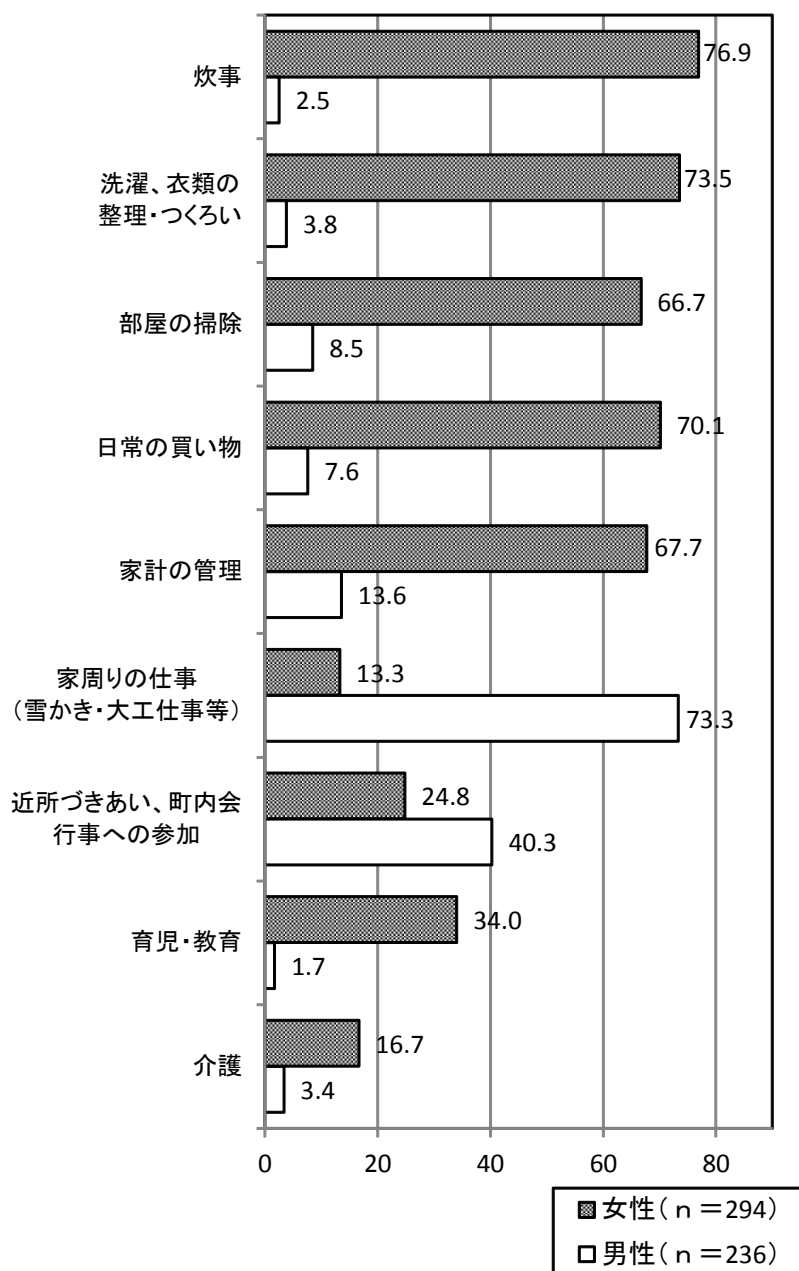


問 4 次の家庭での仕事について、主に誰が行っていますか。（配偶者がいる方のみ、それぞれについて1つずつ）

○ 家庭内での仕事は女性が担い、家周りや地域とのつきあいに関する仕事は男性が担う傾向にある。

家庭での仕事の分担をみると、「炊事」、「洗濯、衣類の整理・つくろい」、「部屋の掃除」、「日常の買い物」、「家計の管理」、「育児・教育」、「介護」は主に女性が担っており、男性が主に担っているのは「家周りの仕事（雪かき・大工仕事等）」、「近所づきあい、町内会行事への参加」という結果となっている。

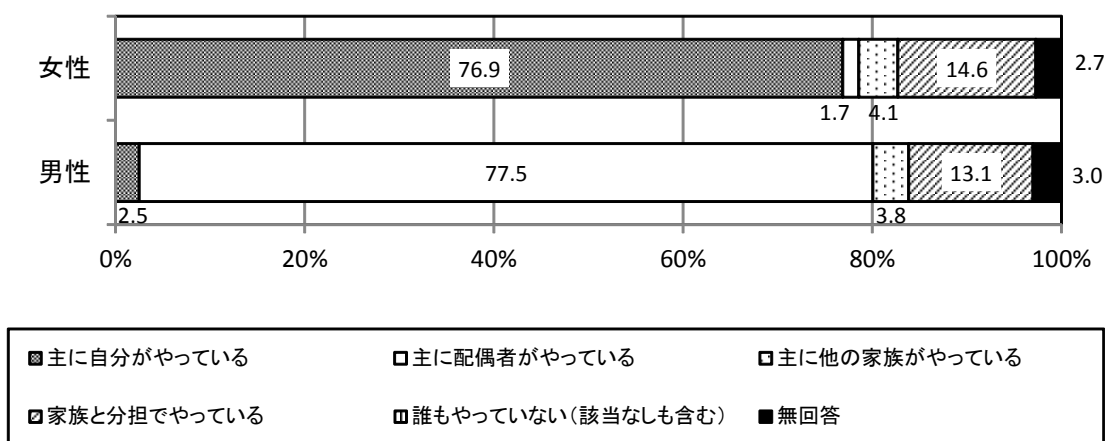
■ 図 9 家庭での仕事の分担（主に自分がやっていると答えた人の割合）



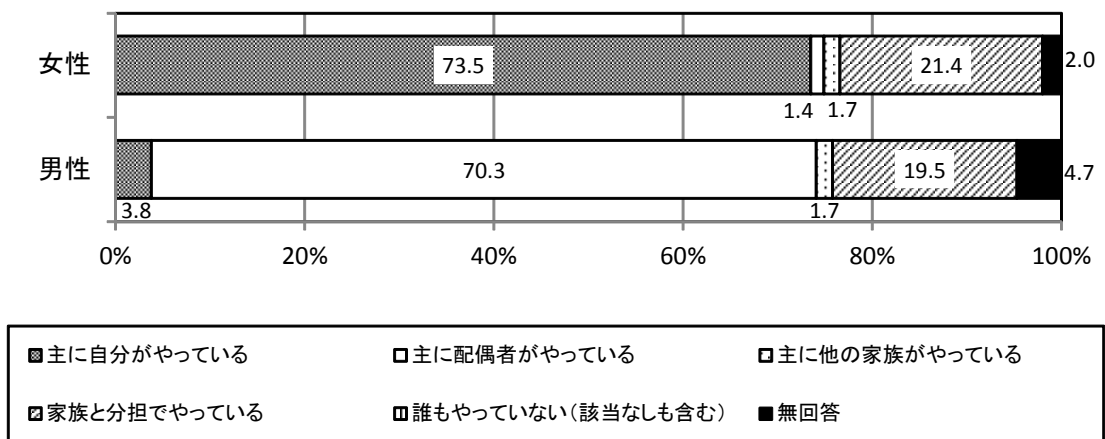
単位：(%)

■ 家庭での仕事の分担

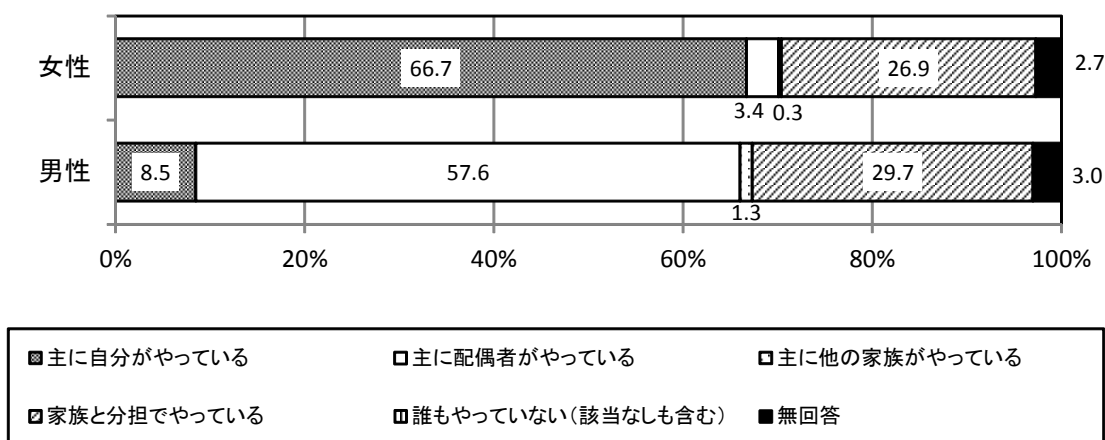
ア 図10-1 炊事



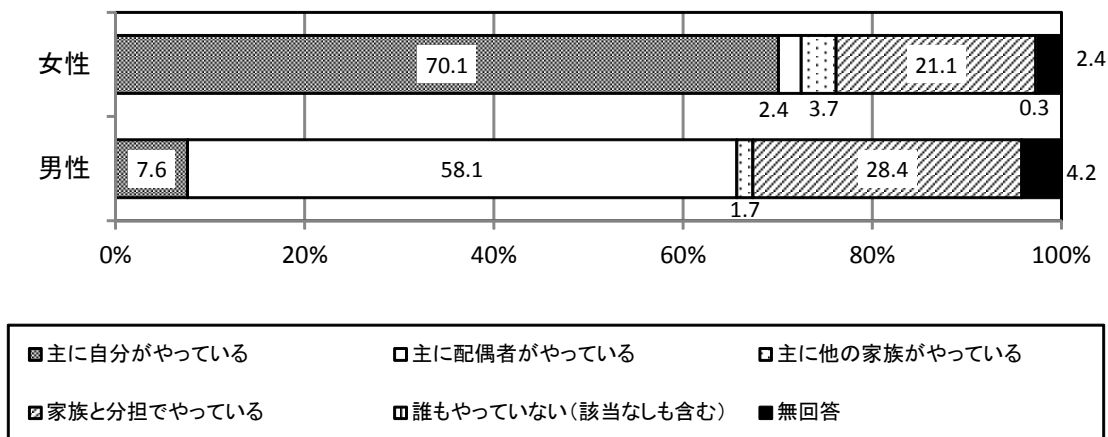
イ 図10-2 洗濯、衣類の整理・つくろい



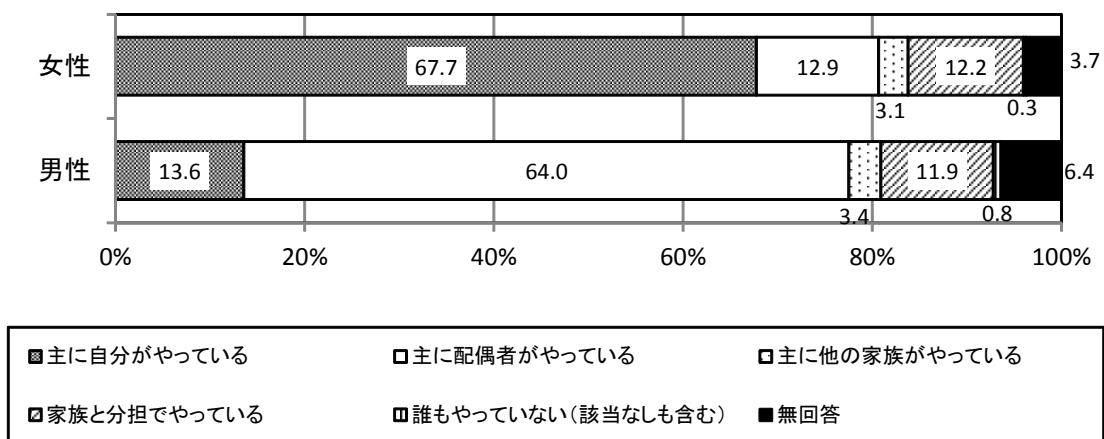
ウ 図10-3 部屋の掃除



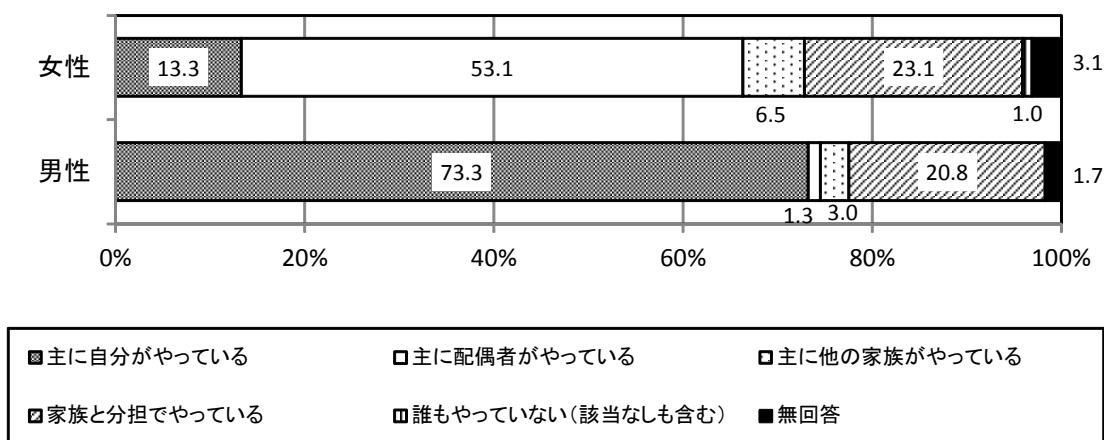
エ 図10-4 日常の買い物



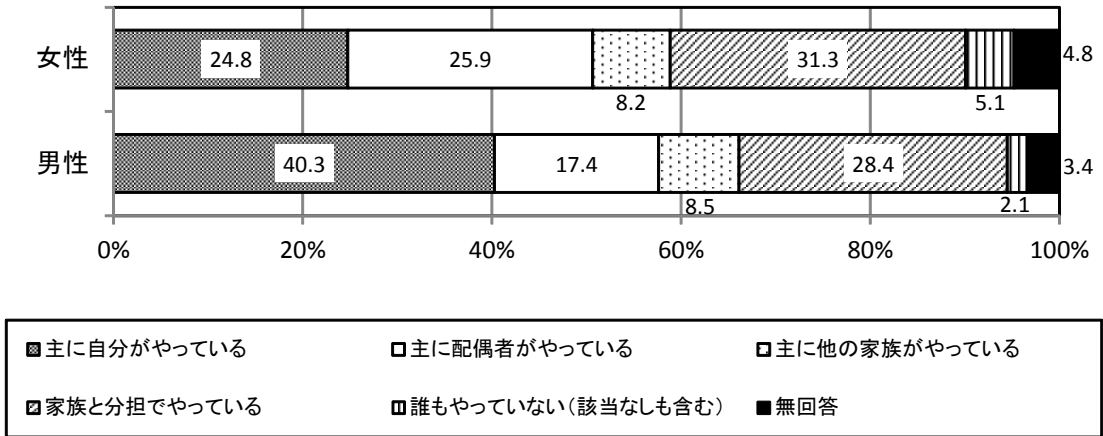
オ 図10-5 家計の管理



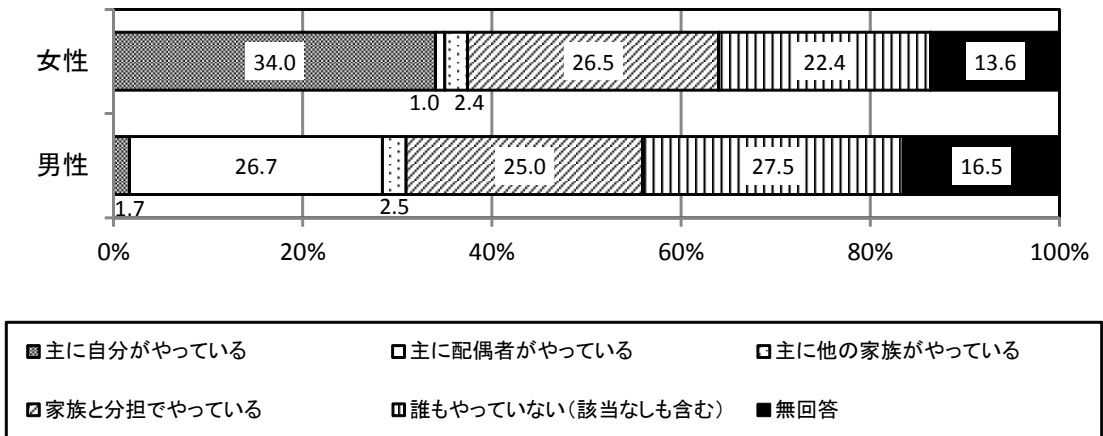
カ 図10-6 家周りの仕事(雪かき、大工仕事等)



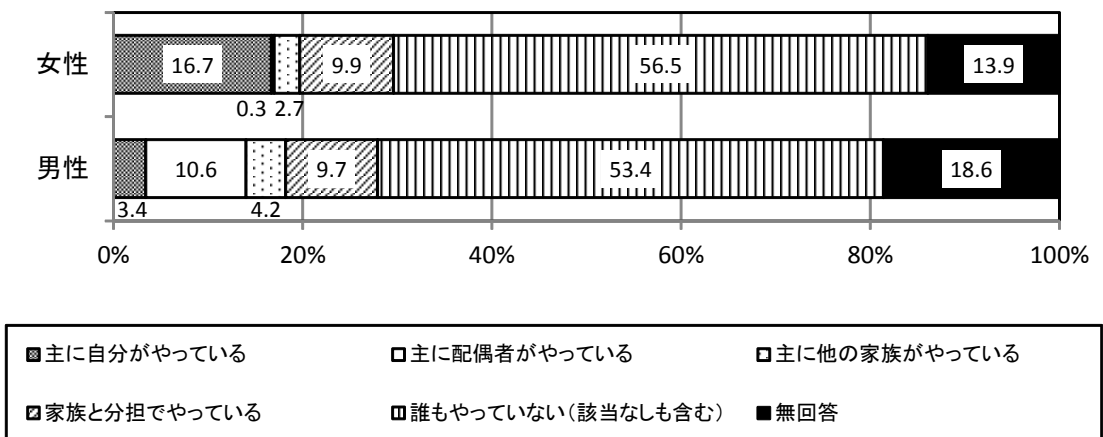
キ 図10-7 近所づきあい、町内会行事への参加



ク 図10-8 育児、教育



ケ 図10-9 介護



3. 男女共同参画に関する意識について

問5 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれについて1つずつ)

- 全般的に、女性が男性に比べ平等感を持つ人の割合が小さい。
- 男女とも、半数以上が「学校」では男女平等だと感じているが、ほとんどの分野で男性の方が優遇されていると感じている割合が高い。
- 「法律等」、「地域社会」において、男性は4割近くが「平等」と感じているものの、女性は男性の方が優遇されていると感じる人の割合が高く、男女の意識に違いがみられる。

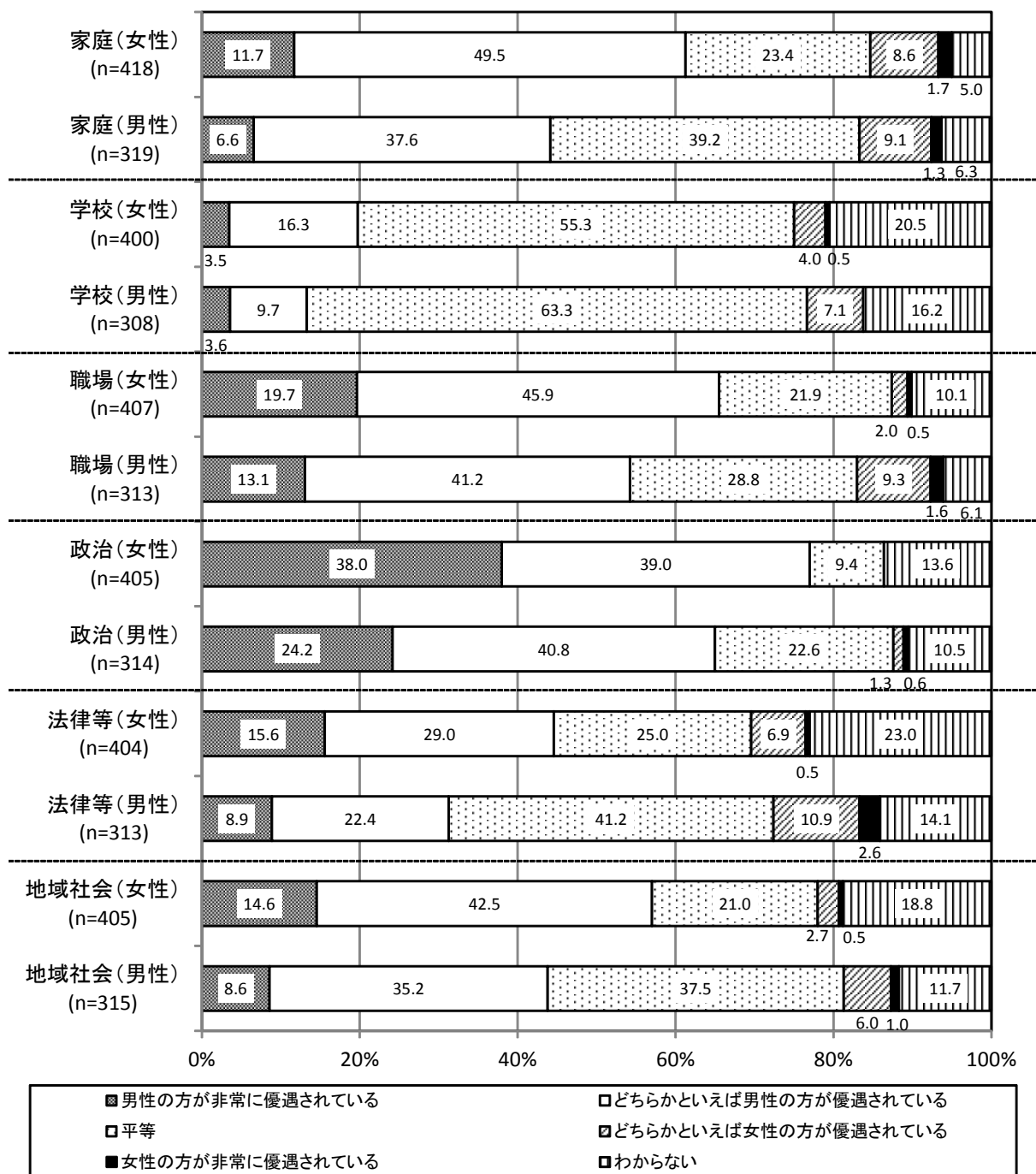
いずれの分野においても、女性が男性に比べて「平等」であると感じている人の割合が小さい。

「男性の方が（どちらかといえば・非常に）優遇されている」と感じている人の割合は、全ての分野で女性の方が高く、「学校」、「法律等」を除く全ての分野で過半数を占めている。また、男女ともに多くの分野で「男性の方が（どちらかといえば・非常に）優遇されている」と感じている人の割合が多数を占めている。

「法律等」では「男性の方が（どちらかといえば・非常に）優遇されている」は女性41.5%、男性29.8%であるのに対し、「平等」は女性23.3%、男性39.3%となっている。また「地域社会」では「男性の方が（どちらかといえば・非常に）優遇されている」は女性53.3%、男性42.0%であるのに対し、「平等」は女性19.6%、男性36.0%で、男女の意識に隔たりがあるのがわかる。

男性の「家庭」、「職場」、「法律等」では「女性の方が（どちらかといえば・非常に）優遇されている」と感じる人の割合は10%程度、その他の分野では男女ともに10%にも満たず、女性の方が優遇されていると感じる人は少数派となっている。

■ 図 1 1 各区分での男女平等感



注：・性別無回答を除く
 ・全国調査との比較の為、各項目について無回答を除いて集計

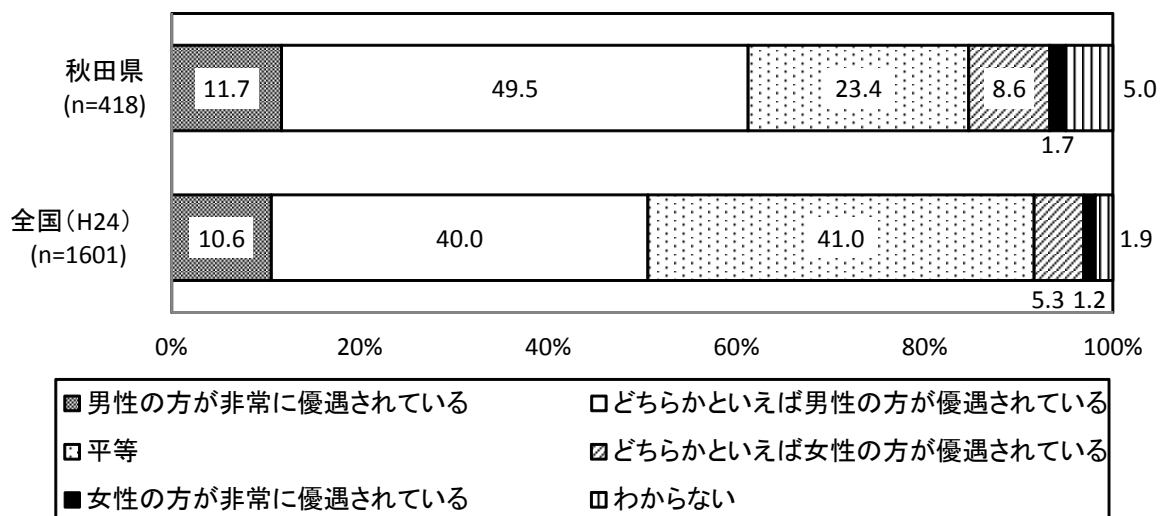
ア 家庭生活

女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.5%と最も多く、次いで「平等」23.4%、「男性の方が非常に優遇されている」11.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」8.6%、「女性の方が非常に優遇されている」1.7%となっている。

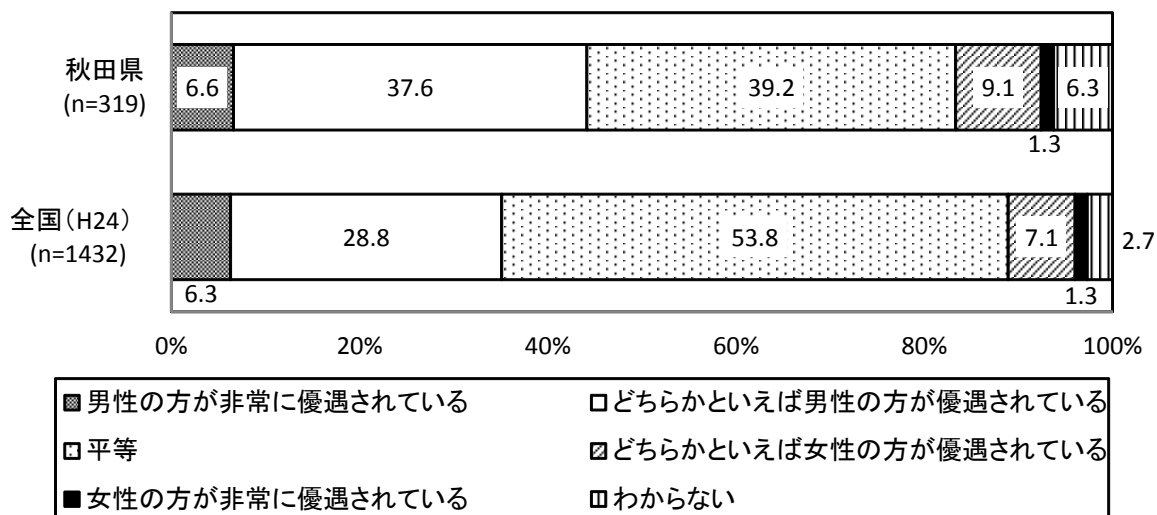
男性では、「平等」が41.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」37.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」9.1%、「男性の方が非常に優遇されている」6.6%、「女性の方が非常に優遇されている」1.3%の順となっている。

全国調査の結果と比較すると、男女ともに「平等」だと感じている人の割合が低く、男性の方が優遇されていると感じている人の割合が高い結果となった。

■ 図12-1 女性



■ 図12-2 男性



※全国データ：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(H24、以下同じ)

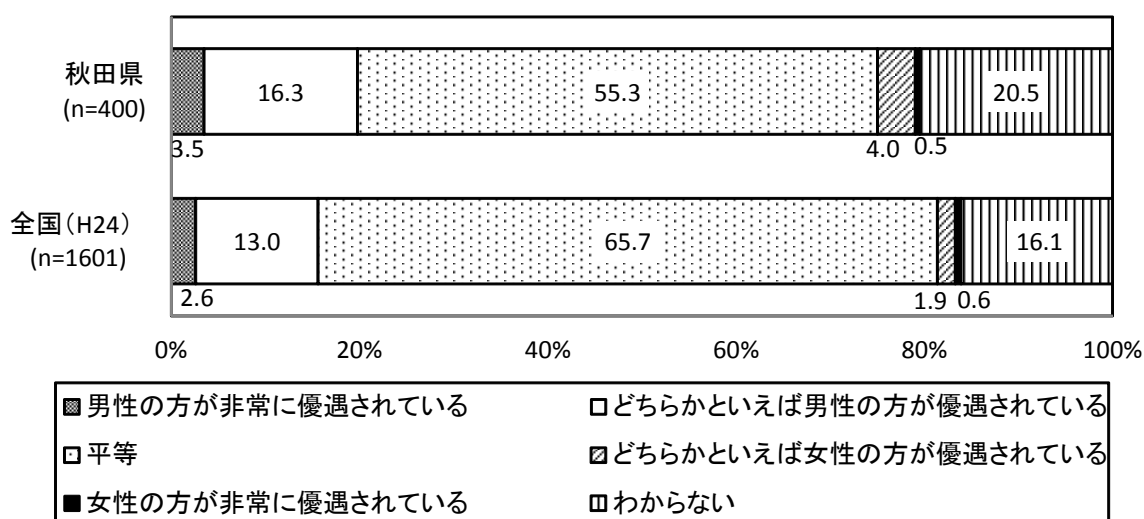
イ 学校教育の場

女性では、「平等」が55.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」16.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」4.0%、「男性の方が非常に優遇されている」3.5%、「女性の方が非常に優遇されている」0.5%となっており、男女ともに過半数の人が「平等」と感じており、これがわかる。

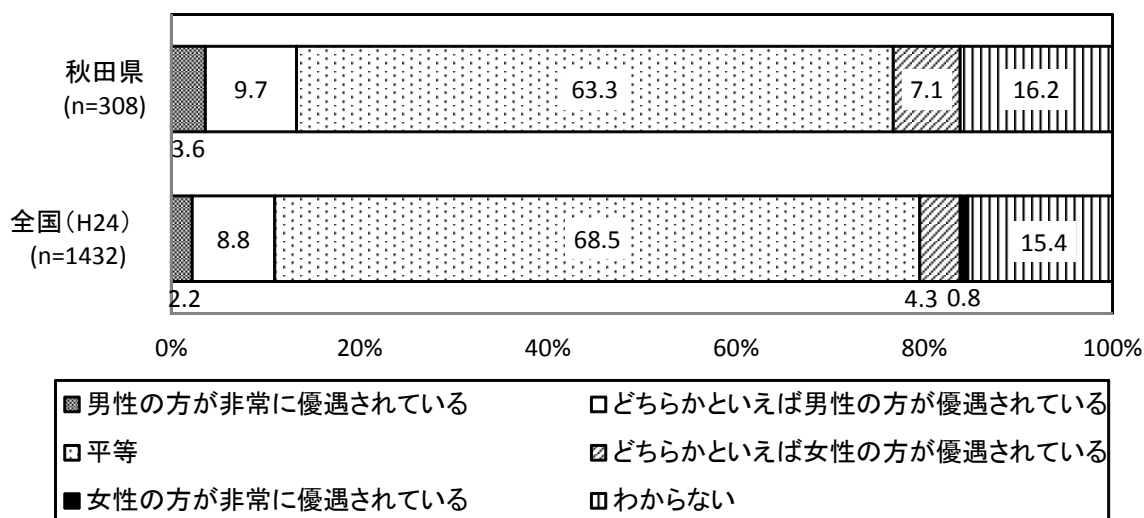
男性では、「平等」が63.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」9.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」7.1%、「男性の方が非常に優遇されている」3.6%となり、「女性の方が非常に優遇されている」と答えた人はいなかった。

全国調査の結果では男女ともに6割を超える人が「平等」と感じており、これと比較すると男性の方が優遇されていると感じている人の割合が多い。

■ 図13-1 女性



■ 図13-2 男性



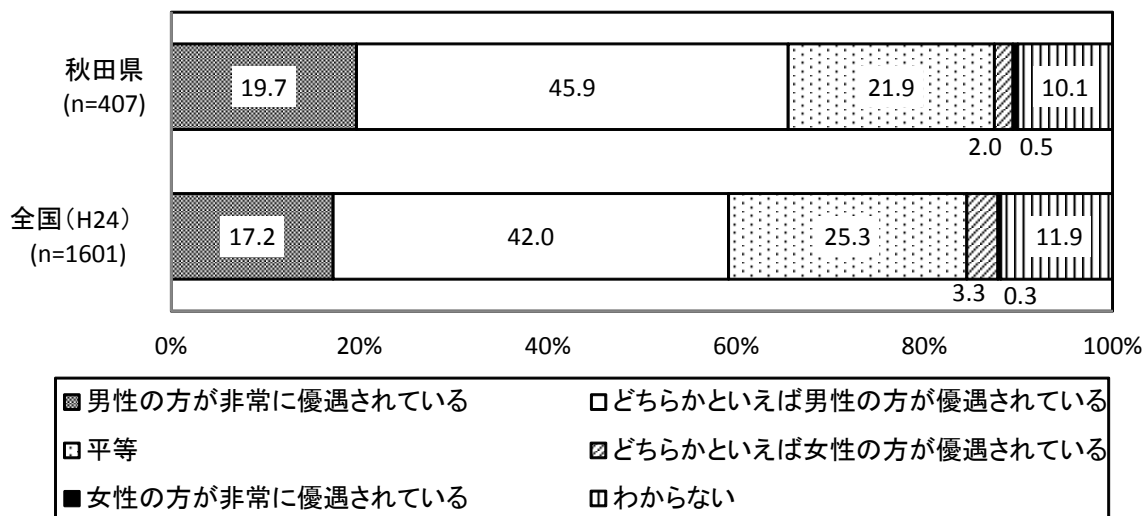
ウ 職場

女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が45.9%と最も多く、次いで「平等」21.9%、「男性の方が非常に優遇されている」19.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.0%、「女性の方が非常に優遇されている」0.5%となっている。

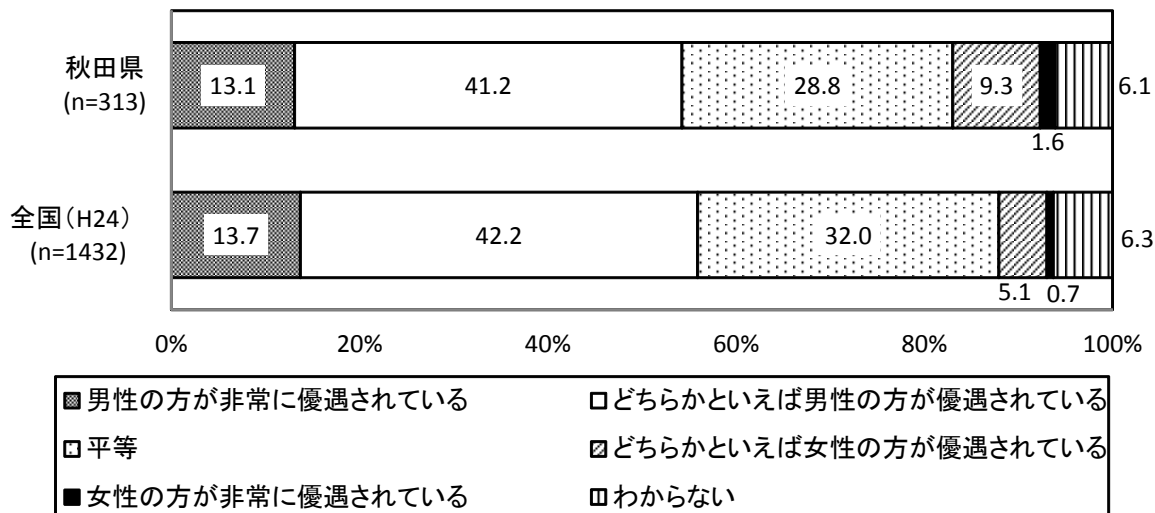
男性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が41.2%と最も多く、次いで「平等」28.8%、「男性の方が非常に優遇されている」13.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」9.3%、「女性の方が非常に優遇されている」1.6%の順となっている。

全国調査の結果と比較すると女性は「平等」であると感じる人の割合が低く、男性の方が優遇されていると感じている人の割合が高い。

■ 図14-1 女性



■ 図14-2 男性



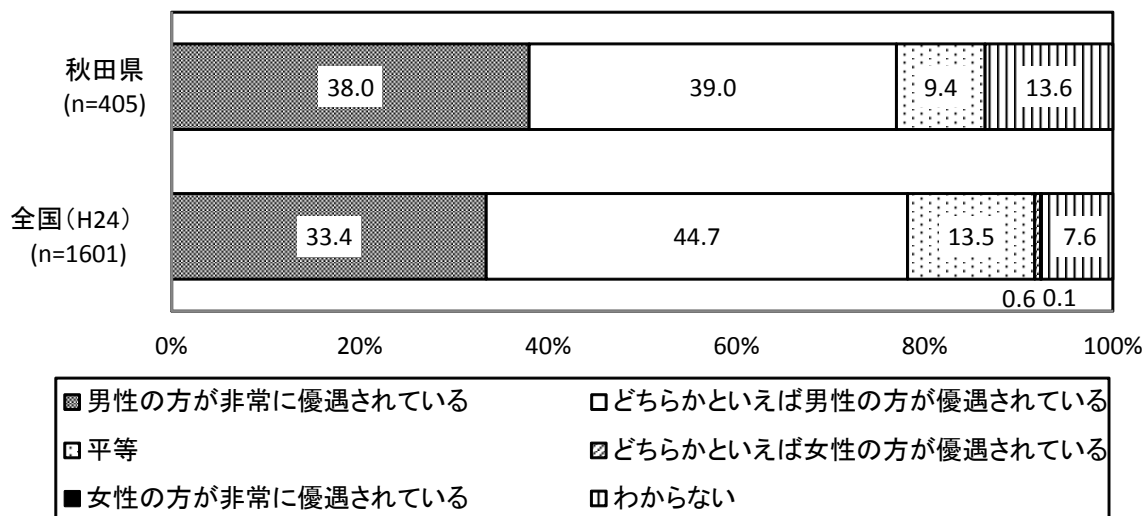
エ 政治の場

女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が39.0%と最も多く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」38.0%、「平等」9.4%となり、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、および「女性の方が非常に優遇されている」と答えた人はいなかった。

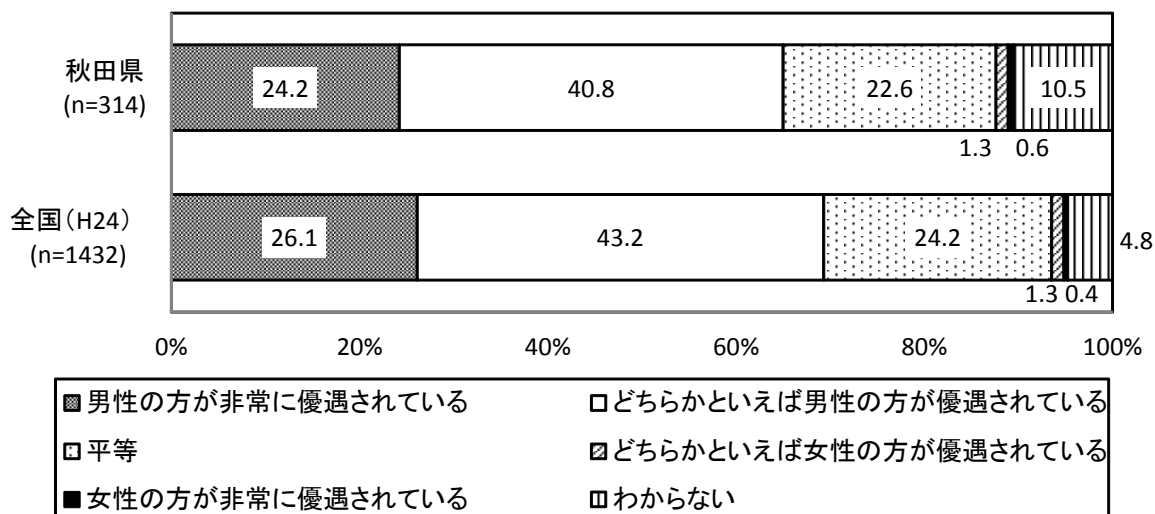
男性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が40.8%と最も多く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」24.2%、「平等」22.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」1.3%、「女性の方が非常に優遇されている」0.6%の順となっている。

全国調査の結果と比較してもあまり大きな差はみられず、男女ともに男性の方が優遇されていると感じている人が多く、女性によりその傾向が強いことがわかる。

■ 図15-1 女性



■ 図15-2 男性



オ 法律や制度上

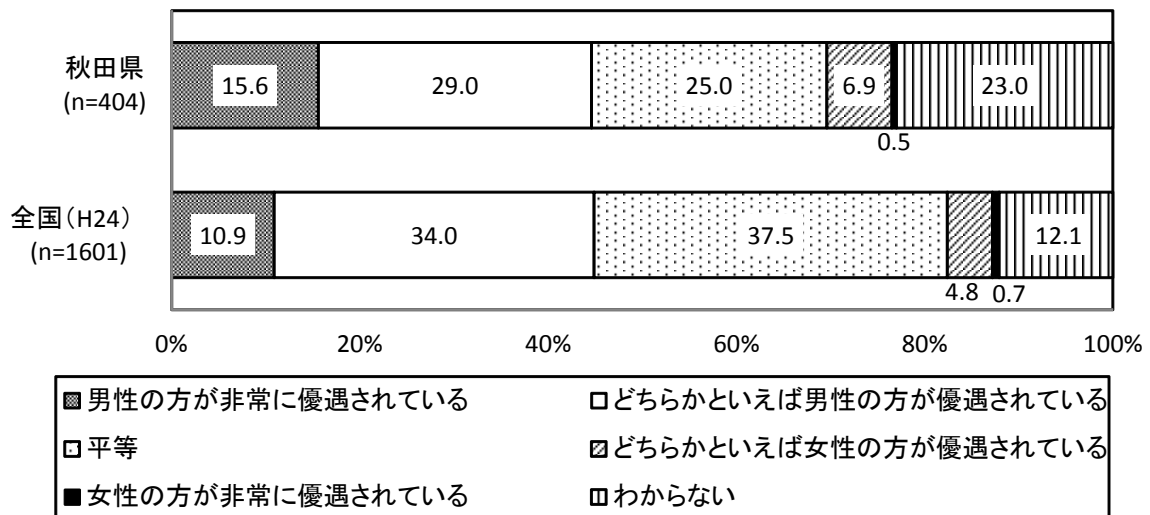
女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が29.0%と最も多く、次いで「平等」25.0%、「男性の方が非常に優遇されている」15.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」6.9%、「女性の方が非常に優遇されている」0.5%となっている。

男性は「平等」が41.2%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」22.4%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」10.9%、「男性の方が非常に優遇されている」8.9%、「女性の方が非常に優遇されている」2.6%の順となっている。

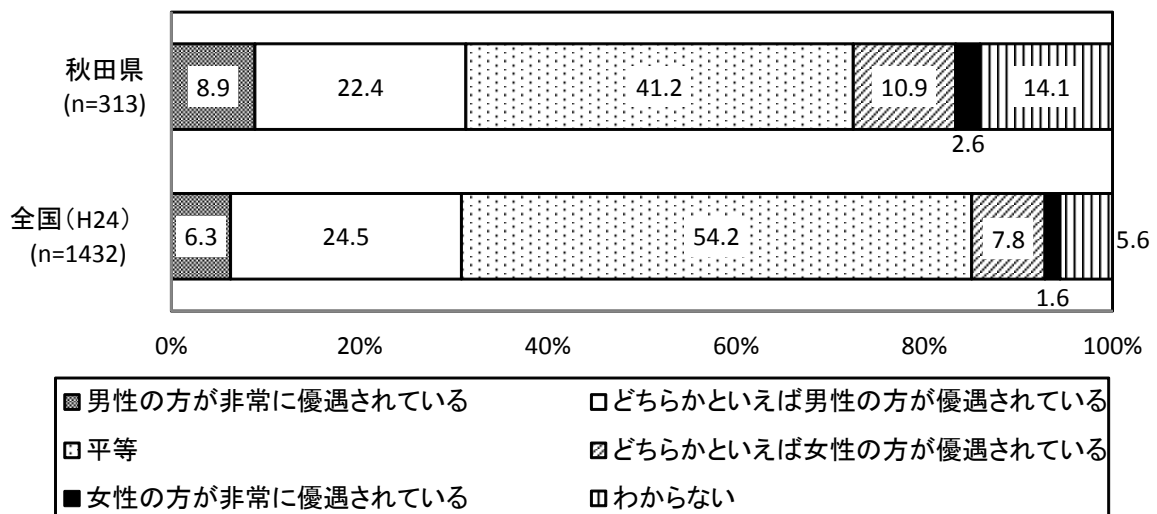
男性は平等だと感じている人が多いが、女性は男性の方が優遇されていると感じている人が多く、男女で意識に隔たりがみられる。

全国調査の結果と比較すると、「わからない」と答える人が非常に多いという結果になった。

■ 図16-1 女性



■ 図16-2 男性



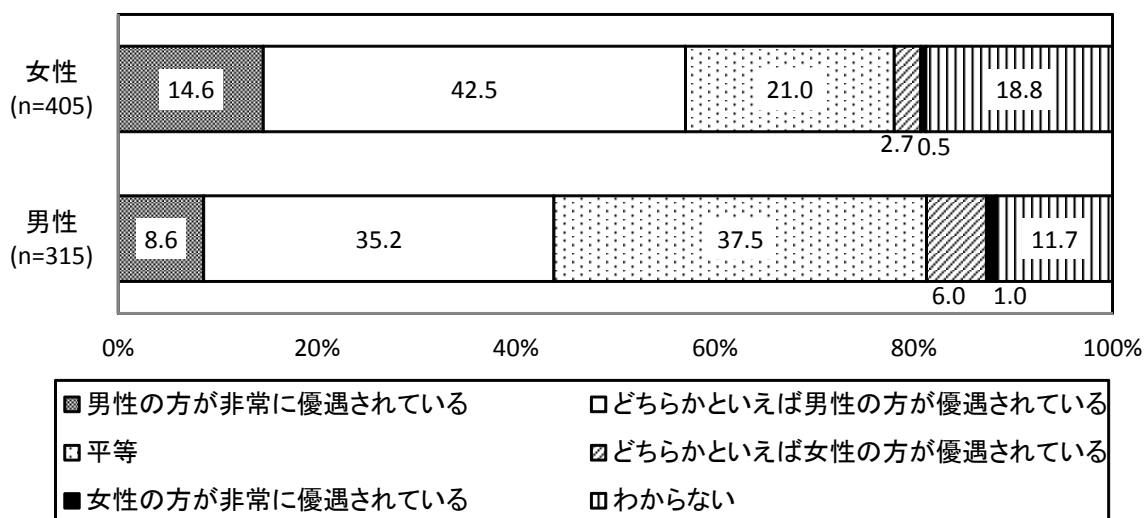
カ 地域社会

女性は、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.5%と最も多く、次いで「平等」21.0%、「男性の方が非常に優遇されている」14.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」2.7%、「女性の方が非常に優遇されている」0.5%となっている。

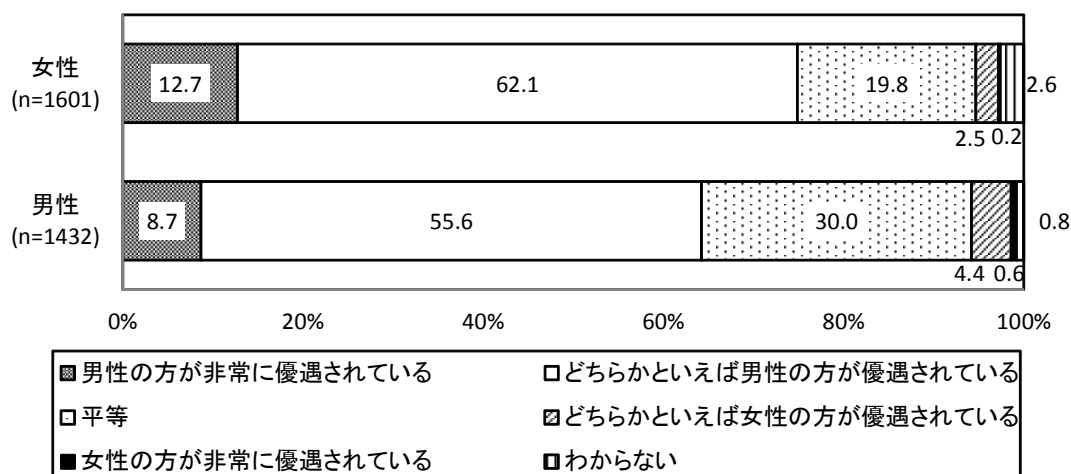
男性は、「平等」が37.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」35.2%、「男性の方が非常に優遇されている」8.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」6.0%、「女性の方が非常に優遇されている」1.0%の順となっている。

男性は平等だと感じている人が多いが、女性は男性の方が優遇されていると感じている人が多く、男女の意識に隔たりがみられる。

■ 図17 地域社会における男女の地位（秋田県）



参考 全国調査 社会全体における男女の地位



注：内閣府の調査における調査項目は「社会全体」であり、参考として掲載

問 6 次にあげるような職業や役職において、女性が「もっと就いたほうがよい」と思うのはどれですか。(いくつでも)

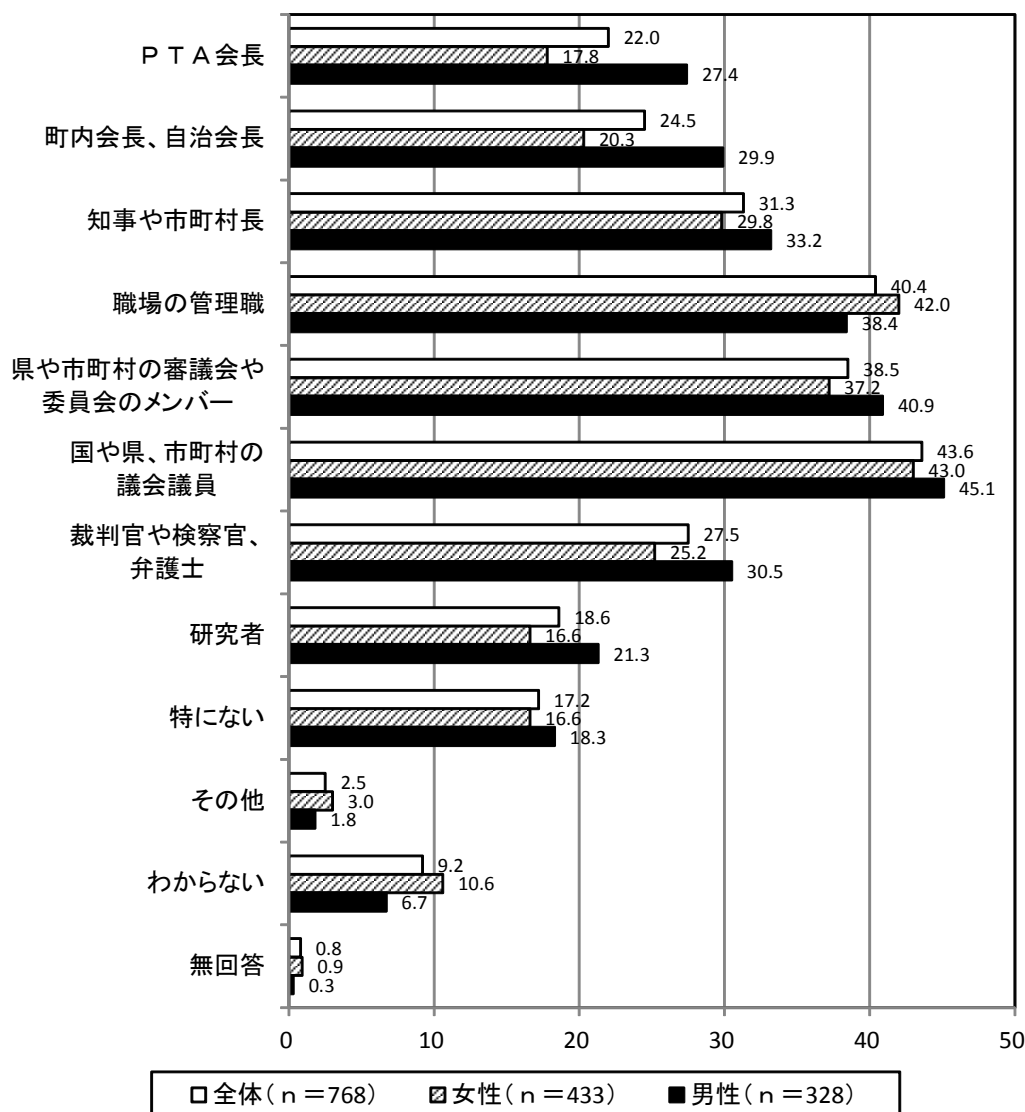
- 全体で、「国や県、市町村の議会議員」が最も多く、次いで「職場の管理職」、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」となっている。
- 男女を比較すると、「職場の管理職」を除き、女性の方が「もっと就いたほうがよい」と思っている人の割合が少ない。

女性が「もっと就いたほうがよい」と思う職業について、全体では、「国や県、市町村の議会議員」が43.6%と最も多く、次いで「職場の管理職」40.4%、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」38.5%、「知事や市町村長」31.3%、「裁判官や検察官、弁護士」27.5%、「町内会長、自治会長」24.5%、「PTA会長」22.0%、「研究者」18.6%の順となっている。

男女別にみると、「職場の管理職」では女性が男性を3.6ポイント上回っているものの、その他の項目では男性が女性を上回っている。

特に、「PTA会長」、「町内会長、自治会長」については男性が女性を9.6ポイント上回っている。

■ 図 1 8 女性の積極的登用



単位：(%)

問7 一般的に女性が仕事をもつことについて、どう思いますか。(1つだけ)

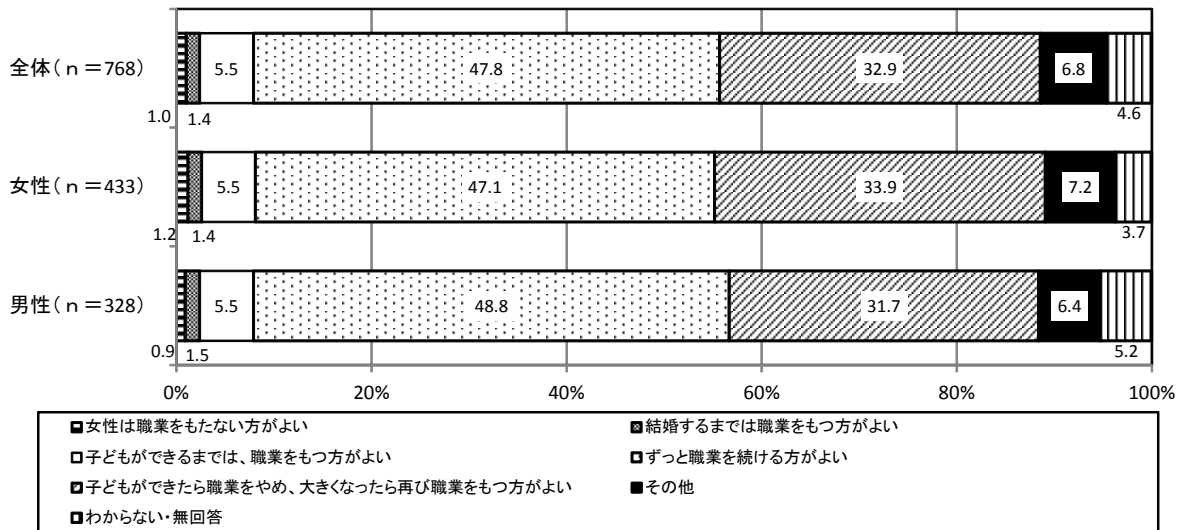
- 男女とも「ずっと職業を続ける方がよい(継続就業型)」が最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(一時中断型)」が多くなっている。
- 男女ともに同様の結果となっており、意識の差はみられない。

女性が職業をもつことについては、全体では「ずっと職業を続ける方がよい」が47.8%と最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」32.9%となっている。

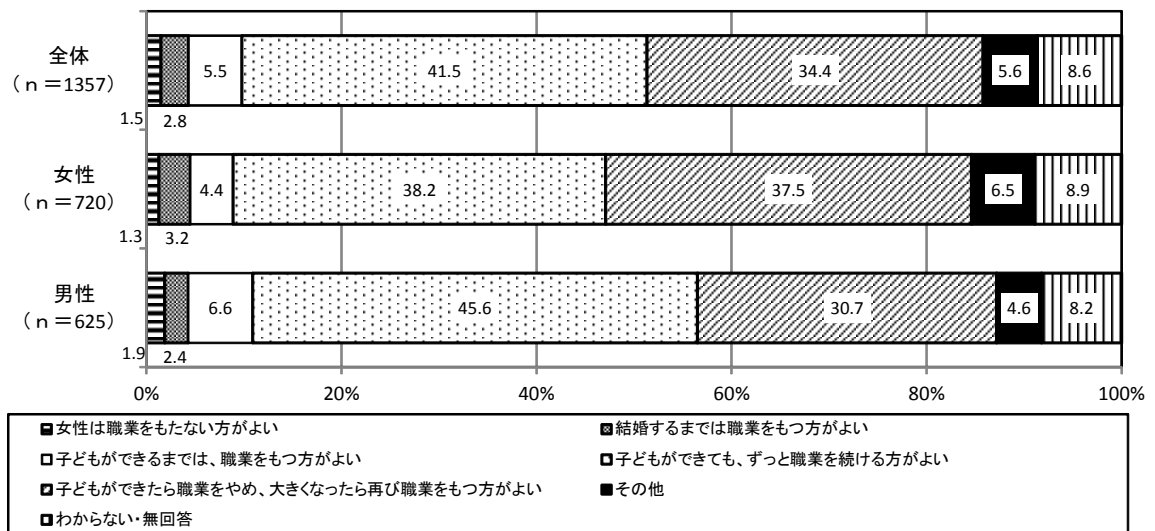
男女とも上位2項目は同じであり、「ずっと職業を続ける方がよい」女性47.1%、男性48.8%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」女性33.9%、男性31.7%と男女で大きな意識の差はみられない。

前回の調査と比較して女性の継続就業型が8.9ポイント増加しており、女性の意識に変化がみられる。

■ 図19-1 女性が職業をもつことについて (H24)



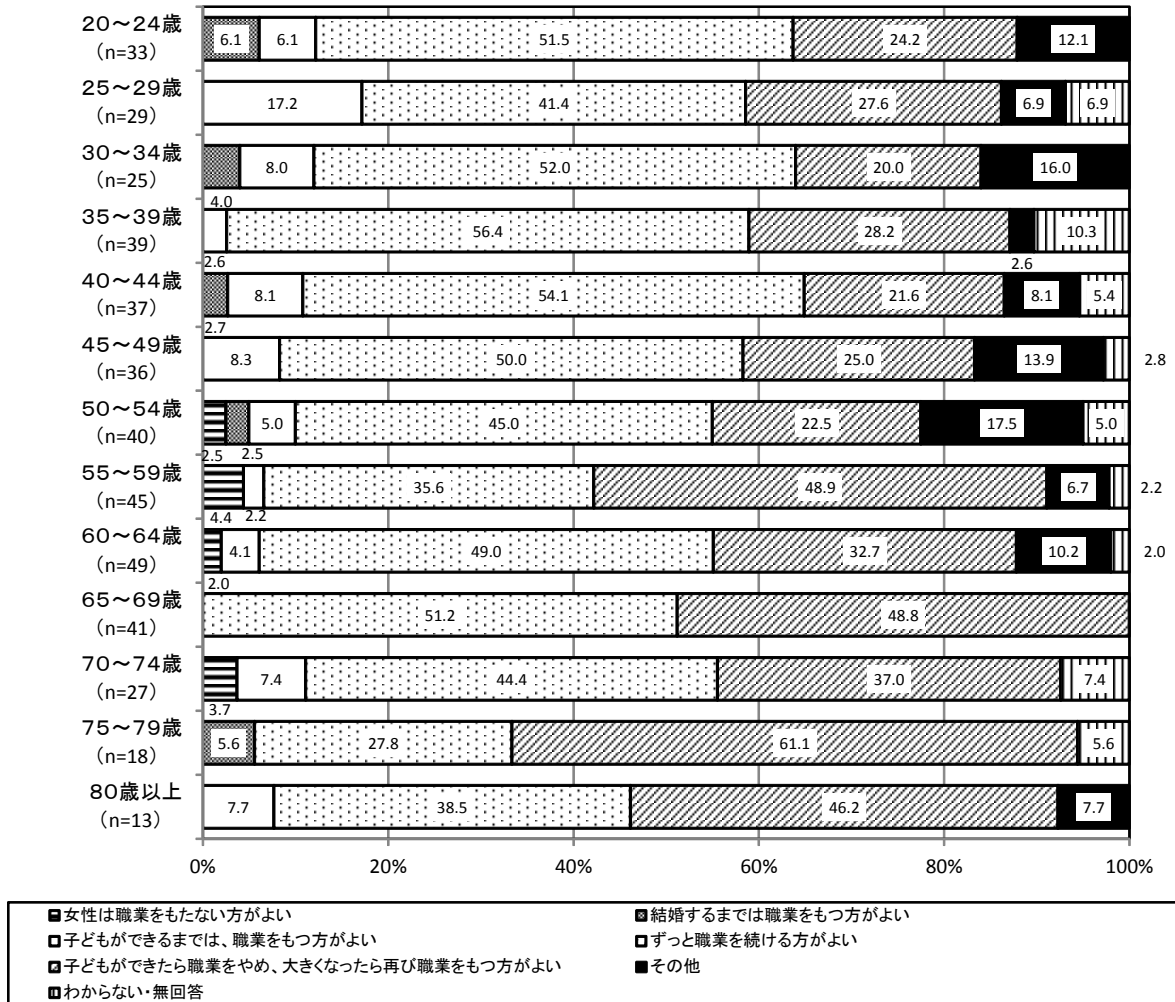
■ 図19-2 女性が職業をもつことについて (H19)



女性を年代別にみると、ほとんどの年代区分において、「ずっと職業を続ける方がよい（継続就業型）」が「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（一時中断型）」を上回っている。一時中断型が拮抗または上回っているのは、55～59歳、65～69歳、75歳以上となっている。

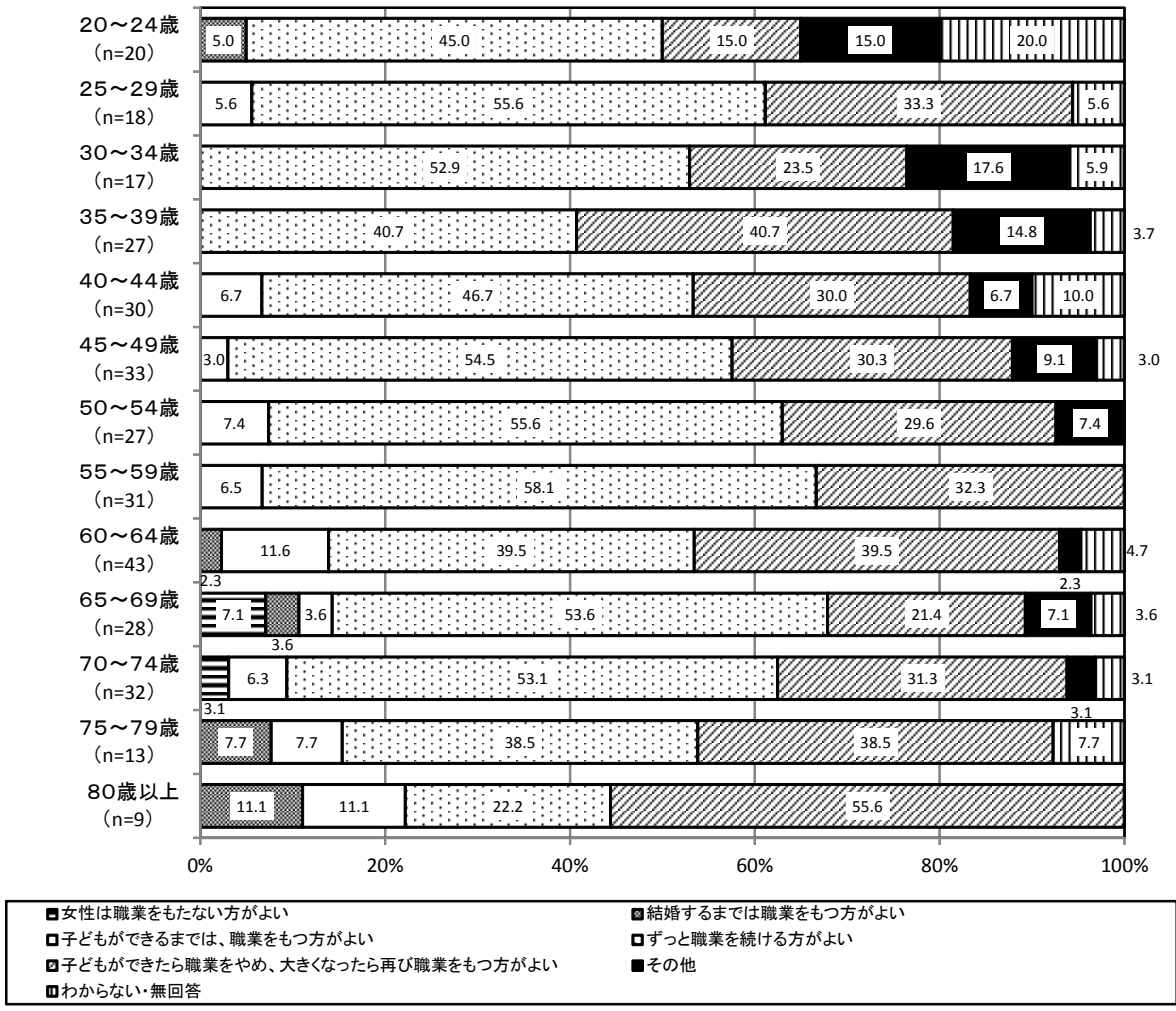
特に、子育て世代と想定される30～44歳では継続就業型が過半数を占めており、共働き志向が強いことがうかがえる。

■ 図19-3 女性が職業をもつことについて（女性年代別）

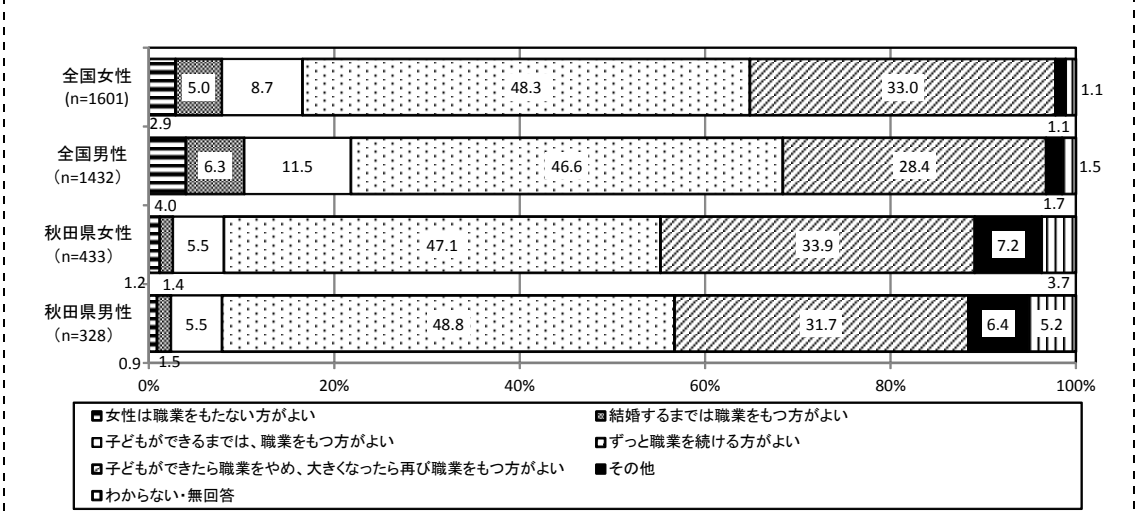


男性を年代別にみると、ほとんどの年代区分において、「ずっと職業を続ける方がよい（継続就業型）」が「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（一時中断型）」を上回っている。一時中断型が拮抗または上回っているのは、35～39歳、60～64歳、75歳以上となっている。

■ 図19-4 女性が職業をもつことについて（男性年代別）



参考 女性が職業をもつことについて（全国調査との比較）



内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(H24)